



金沢脳神経外科病院だより

ふれあい

2006年  
夏季号

日本医療機能評価機構認定病院  
医療法人社団 浅ノ川  
金沢脳神経外科病院 広報誌  
第23号  
発行所 メディア広報室  
石川郡野々市町徳用町315  
TEL 076 - 246 - 5600  
FAX 076 - 246 - 3914  
URL : http://www.incl.ne.jp/knoug/

## 病院理念

脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様へ、より高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。

## 基本方針

1. 患者の皆様のご権利と人間性を尊重した温かい医療の提供に努めます。
2. 地域の医療機関と連携を行い、患者の皆様が安心と満足の得られる医療の提供に努めます。
3. 脳神経外科専門病院として、地域の救急医療の提供に努めます。
4. 急性期から回復期リハビリ、慢性期の一貫した医療を提供します。
5. 患者の皆様に対して、適切な言葉と態度を心がけるよう努めます。
6. 患者の皆様のご意見、ご希望を医療に反映させるよう努めます。

## 患者さまの権利

私達は患者の皆様のご権利を尊重し、信頼に基づいた医療を行うため、患者の皆様のご権利に関する宣言を掲げます。

1. 適切で最善の医療を公平に受ける権利
2. 検査や治療について真実を知り、十分な説明を受ける権利
3. 検査や治療を受ける権利と受けることを拒否する権利
4. プライバシーの秘密保持を得る権利
5. 病院や医師を自由に選択し、あるいは変更する権利

病院長

## 脊椎手術治療の

## 新時代へ向けて

病院長 佐藤 秀次



「脊椎手術は怖い、できるだけするな」を合い言葉のように脊椎の手術治療は人々から敬遠されてきました。「腰の手術を受けたら車椅子になった、頰椎の手術を受けたら寝たきりになった。」これらは極端な例としても、脊椎手術が回避されてきた大きな理由になっていきます。この脊椎手術に潜む危険性は今後ともなくなることはないでしょう。しかし、他の手術治療の進歩同様、脊椎手術も過去の危険で不確実な時代から高い安

全性と良好な結果の期待できる新しい時代へと変化を遂げています。それを推進したのが高精度のMRIであり、手術顕微鏡です。現在、本院では痛みや危険を伴う検査は脊髄造影を含めて原則行われていません。診断は問診と神経学的検査、レントゲン撮影、CT、MRIで十分であり、手術は手術顕微鏡を用い、2cm以下の切開による最小の手術侵襲で治療目標を達成しております。翌日から歩行でき、術後鎮痛剤の必要性は激減し、早期退院が可能となり、術後コルセットの装着は短期間で済みます。「治りにくく、治療の困難な病気」と受け止められてきた頰椎と腰椎の椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症などは、今では「安全に痛みも少なく治せる病気」になっており、今後とも痛みと身体の不自由に悩む方々を一人でも多く救えるよう鋭意努力して参る所存です。

登録医療機関

紹介コーナー

在宅療養支援診療所

嶋 医院

(胃腸科、外科、内科、肛門科)



院長 嶋

裕一先生  
(白山市中町)

消化器外科医が

地元で町医者を目指す

JR松任駅前の中央通りを進むとすぐに千代尼通り商店街と交差しますが、その一画に今回ご紹介する有床診療所(5床)の嶋医院があります。院長の嶋先生をお訪ねすると、とても気さくにお話を聞かせてくださいました。今日7月10日は先生の誕生日、納豆(7・10)が大好きな57才、実家はケーキ屋で、大学は工学部を経てから医学部に入学したとのこと。趣味は尺八、今は地元で盛んな和太鼓を始めたことなど笑いながらおはなしくださいました。先生は、当地域にあった米永医院の米永東吾先生のように地域の皆様の「かかりつけ医」になるのだと心に決め開業されたそうです。地域の皆様があいそいで来られる医院、電車で乗って来られる医院、そんな気軽な医院がここにあります。先生の中には今でも以前勤務されていた山

中や高岡から肛門痛で悩んでおられる方が地域の先生からの紹介状を持って来られます。先生は、ご自分の好きな専門領域になると熱が入ってお話されます。内痔核治療法研究会の会員である先生は「お尻にやさしい治療」や「最新医療」に心がけて患者様を診ておられます。また在宅医療では褥瘡のスキンケアにも積極的に取り組んでおられ、患者様からは、安心して在宅療養が続けられると喜ばれています。

【先生の経歴】

昭和48年金沢大学工学部卒業  
昭和55年金沢大学医学部卒業  
金沢大学医学部第二外科から現在の山中温泉医療センター、高岡市民病院での勤務医を経て、平成13年6月開業

【登録認定医等】

医学博士/日本消化器外科学会専門医/日本外科学会専門医



嶋医院外観

当院における脳ドックの利用現状

治療から予防の時代へ

事務長 谷 寛 憲

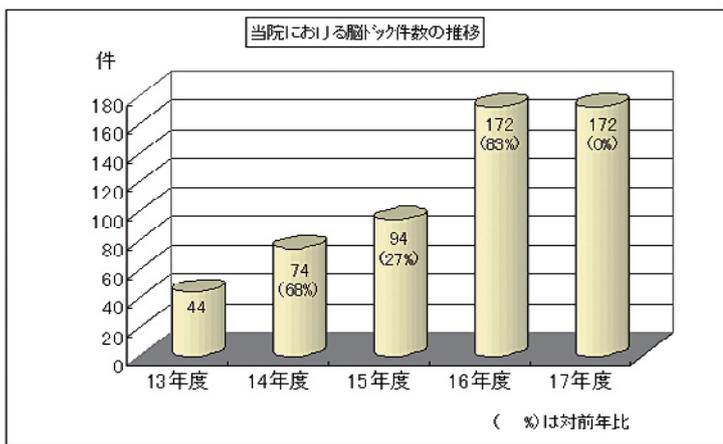
平成17年の厚生白書(発行:厚生労働省)によれば、病気の死亡原因の第3位に脳卒中が入っています。

発症の原因として、糖尿病、高脂血症、高血圧、高尿酸血症などが言われており、一般に30~40歳代以上の世代から発症しやすくなり、かつその発症に生活習慣(食事習慣、運動習慣、肥満、喫煙、飲酒など)が深く関わりと考えられています。

”予防に勝る治療なし“と言われるように、このような脳卒中の発症を少しでも減らすための一つとして、予防のための「脳ドック」があります。当院における脳ドックの利用状況は、平成12年度の44件に対し、平成17年度は172件と5年間で約4倍に伸びています。

これは、国民の医療に対する意識が”治療から予防“へと徐々に変化してきている証左ではないかと考えています。

予防医療に対する関心が高く、県民全体の検診受診率(脳ドックを含む)の高い長野県が、県民一人当たりの医療費が日本一少ないのは、早期発見、早期治療が進んでいるためと言われており、まさに”予防に勝る治療なし“の証明ではないでしょうか!



# 脳内出血について

副院長 山本 信孝

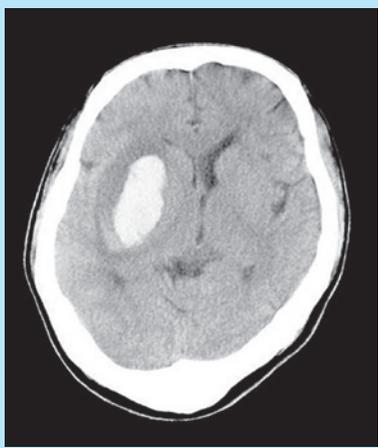
脳溢血(のういつけつ)という言葉を使えば最近少なくなりましたが、年配の方の中には脳卒中というより馴染みが深いかもしれません。脳溢血と脳卒中は同義ではなく本来脳内に出血した場合に使われます。しかし、CTが登場する以前には脳梗塞と脳内出血の区別がつきにくかったため脳溢血は脳卒中と同じ意味に使われていたようです。

脳内出血の原因として、多いものは高血圧により脳内の0.1mm程度の細い血管が脆くなることです。出血自体は数分でおさまることが多いのですが、脳内の運動や知覚神経の通り道の近くに起こることが多いため半身の障害を生じます。治療としてまず思い浮かぶのは手術ですが、出血により神経が切れてしまっていると手術をしても麻痺などの障害は改善しません。しかし、出血が多い場合には生命にかかわることがあるため救命のために手術は必要であり、意識障害を早期に改善させるためにも

手術は有効な場合があります。

予防としては、血圧のコントロールが最も大事ですが、少量の飲酒(一日0.8合程度)は出血の危険を抑制することが知られています。(もちろん無理して飲むことは禁物です)また、脳血管障害の大敵と思われるコレステロールもあまりに少なすぎても出血する危険性が高くなると言われています。

血圧以外の原因として、近年アミロイド血管炎が知られるようになりました。これは、アミロイドと呼ばれるたんぱく質の一種が血管に沈着し、血管が脆くなります。年齢が進むにしたがってこの病気が起きる可能性が高くなりますが、現在はまだ予防法治療法は確立していません。しかし、発生頻度は近年高まる傾向にありますので、研究が進められています。



脳内出血

## 院内研修

### — NST 推進委員会 —

NST推進委員会では定期的に勉強会を行っています。7月20日には「口腔ケアについて」という内容で、外部講師としてお招きした綿谷歯科医院の綿谷修一先生に講義をしていただきました。



## 学会発表活動

5月25、26日に金沢市で開催された「第21回日本脊髄外科学会」にて tube retractor 使用

佐藤院長が「頸椎変性疾患に対する tube retractor 使用の低浸襲手術」という演題で発表を行いました。また、朴在鎬医師も「超外側型腰椎椎間板



の低浸襲手術」という演題で発表をしました。どちらの演題に対しても、会場から多数の質問が寄せ

られ、この手術に対する関心の高さが伺われました。

また、初日のイブニングセミナー「私の考える Minimally Invasive Surgery」においても、佐藤院長は演者の一人として発表しました。本セミナーでも活発な意見交換が行われました。

## 患者さんコーナー

匿名希望様

## MD手術を受けて

私がこの病院にお世話になろうと思ったのは、MD法による手術が実施されていたからです。一般的な切開する手術では、回復するまでに2ヶ月ばかりかかると思っていたので、手術するなら顕微鏡学的な方法と聞いていたのです。ちょうどその時、職場のご主人がこちらの病院で手術し、10日目で退院されたとき、早速予約させていただきました。手術した翌日の11:00過ぎにもう起き上がることができ、自分でトイレに行きました。本当に手術したのか信じられないほどでした。一日一日回復していきました。佐藤先生はじめ竹内先生、病棟師長、看護師のみなさま大変お世話になりました。本当にありがとうございます。

毎日暑い日が続きますね。

こまめな水分補給と

規則正しい食生活で

夏を乗り切り

ましよう。



## It's SHOW TIME!

## 患者満足向上委員会



患者満足向上委員会では、長い療養生活を送られている患者様に楽しんでいただくとうと毎年催し物を企画しています。今年に入ってから5月17日にキャリドリームによる音楽ショーと7月26日にマジックショーを催しました。

音楽ショーでは、ラテンミュージックや演歌、琴演奏、更にミニゲームも交えて楽しいひと時をすごしていただきました。

ボランティアの西条さんによるマジックショーでは、ご本人が「さらさらのジャケットにカッラ」といういでたちで登場され、楽しい雰囲気デショーが始まりました。伸びやかな歌声、冗談まじりのトーク、次々繰り出されるマジック、おもしろいクイズに、みなさんからは笑顔がこぼれていました。

これからも、患者様に楽しんでいただけるような、催し物を企画していきたいと思えます。



## 編集後記

長かった梅雨も終わり、夏本番を迎えました。私たち職員一同も体調管理に留意したいと思います。広報誌へのご意見、ご要望をお待ちしています。

## 編集委員

田野・谷村・中野・山口・寺田

